



◇ 今回は、第3回SGH講演会(障がい者スポーツ・パラリンピック)の報告です。

日時：平成29年12月5日(火) 14:15~16:05

場所：関高校体育館 対象：1・2年生生徒全員

内容：

○ 鳥居昭久氏(愛知医療学院短期大学副学長)によるセミナー

「障がい者スポーツを知ろう! ~パラリンピック教育~」

講師略歴： ロンドン・北京・リオデジャネイロパラリンピック随員

(日本選手団トレーナー、ボート競技監督等)

○ 車いすバスケットボール選手による実演及びセミナー

◎有川美穂 選手(日本代表選手、Brilliant Cats 所属)

◎池戸義隆 選手(岐阜シャイン所属)

◎秋田 啓 選手(日本代表選手、岐阜シャイン所属)

◎田中秀弥 選手(日本代表選手、岐阜シャイン所属)

◎正橋幸夫 選手(岐阜シャイン所属)

◎深見大輔 選手(岐阜シャイン所属)

前半は、障がい者スポーツとパラリンピックをテーマに、鳥居昭久先生にご講演いただきました。ユーモアを交えた先生のお話ぶりに、多くの生徒が聴き入りました(右写真上段)。

「スポーツに限らず、障がいがある人も楽しく暮らせる社会は、実は、私たちすべての人にとって便利で快適な社会です」という先生の言葉に、うなずく生徒たちの姿が印象的でした。

後半は、車いすバスケットボール選手のみなさんの登場。機敏に車いすを乗りこなしながらのプレーに大歓声があがりました。さらに、希望する生徒たちが次々と車いすに試乗し、鬼ごっこや車いすバスケットに初挑戦しました(右写真下段)。

鳥居先生や選手のみなさんとのふれあいを通じ、SDGs(持続可能な開発目標)の中にも掲げられている「障がい者の自立と支援」について、生徒一人ひとりが真剣に考えるきっかけになりました。本校は、岐阜県オリンピック・パラリンピック教育推進指定校(平成29年度スポーツ庁委託事業)であり、今回の講演はその実践の一環でもあります。



## 生徒の感想（2年生）

\* 今回の講演を聞き、初めて知ったことがいくつもありました。まず、日本の制度の中で、障がい者の分類がいくつもあること。パラリンピックがオリンピックと同等になったのは、最近であること。しかし、社会において支えあって生活していかなければならないのに、私には全く知識がありませんでした。

見た目では分かりにくい障がいのある方もいる中で、全員が障がいについて理解し、すべての人々が住みやすい

社会を作っていくべきだと思いました。車いすバスケット選手の方々はとても楽しそうで、みんなが公平にできる素敵なスポーツだと思いました。



\* 障がい者スポーツについて考える機会がこれまでなかったので、今日はとても良い機会になった。障がい者が社会で、少しずつ生きやすい世の中になっている中で、私のように今まで障がい者スポーツについて知らなかった人たちも、より多くを理解してることが必要だと思った。また、後半の体験で、選手の皆さんがとても楽しそうにバスケットボールをしているのを見て、人生で大きな壁にぶち当たっても、あきらめずに自分ができること、したいことを、精一杯やるのが大事なんだと感じた。とても励みになりました！

\* 鳥居先生のお話では、「**失ったものを数えるな、残っているものを最大限に生かせ**」という言葉が、一番印象に残りました。これは、スポーツだけの言葉ではないと感じました。勉強でも、同じことが言えると思いました。気持ちを改に、勉強に一生懸命取り組もうと思いました。選手の方と一緒に、車いすバスケットの体験をしました。乗ってみて思ったことは、実際のバスケットゴールの高さよりも、自分が低くなるので、ゴールに入れにくく、シュートがしづらいということと、腕力がとても必要になってくるということです。こういう機会に、再び出会えるかどうかわかりませんが、将来こういったことにも携わってみたいと思いました。

## 生徒の感想（1年生）

\* 今回の講演を聞いて、人生の失敗を1回1回悔やんでいないで、前を向いて精一杯生きていきたいと思いました。僕は、バスケットボールをしています。今回の3 on 3を見て、選手の方々も車いすのまま、転んでも自分の力で立ち上がる姿を見て、感激しました。自分がバスケットをしていて、すぐにあきらめてしまっている姿が、とても恥ずかしく思えました。僕は、つらい時でも、自分の力で立ち上がり、努力し、生きていきたいです。また、パラリンピックについて興味をもてたので、2020年の東京パラリンピックも見たいと思いました。

\*私は今まで、正直、障がい者スポーツのことを他人事に感じていました。でも、今日最初に話を聞いたときに、自分がもしかしたら、事故などで障がいをおい、自分のやりたいと思っていたことや、好きなことができなくなることを考えました。そうしたら、どうになってしまうのだろう。生きる楽しみが無くなってしまわないか？ だから、こうした障がい者スポーツがいろいろと工夫され、パ



ラリンピックも行われるほど多くの方が携わっているんだと思いました。障がい者スポーツは、決して他人事ではなく、社会全体でみんなが考えるべきなのだと思います。私は今日をきっかけに、もう少し障がい者スポーツについて調べていきたいです。

\*私はこれまで、パラリンピックについてあまり知らなかったけれど、今回の講演を聞いて、たとえ障がいがあっても、自分ができることで個性を磨いていくという気持ちを強く感じました。オリンピックやパラリンピックは選手だけのものではなくて、みんなに関係することで、みんなで作っていくものなのだと改めて思いました。今日来てくださった方々は、自分の持っている技能を十分に発揮できるように、たゆまぬ努力をされていることが分かりました。私も、そんな素敵の人になれるように、これから大変なこともあると思いますが、周りの人と協力して、頑張っていきます。

